

はじめての

万葉集

[vol.56]

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介!

麻続王の 伝承

おみのおおきみ



打つ麻を 麻続王 海人なれや 伊良虞の島の 玉藻刈ります

【訳】

打った麻をうむ、麻続王は海人だからだろうか、
伊良虞の島の玉藻をわびしく刈っていらつしやるよ。

作者未詳 巻一 二三番歌

今回の歌は、天武天皇の時代に、麻続王という人物が罪によって伊勢国の伊良虞の島に流された時に、ある人が哀傷して作ったと伝えられている一首です。「伊良虞の島」は所在未詳ですが、現在の愛知県の渥美半島先端の伊良湖岬とする説や、伊良湖岬西方の神島とする説があります。麻続王は伝未詳の人物です。『日本書紀』天武天皇四(六七五)年四月条には、時に三位であった王を流罪にしたとありますが、何の罪であったかは不明です。『日本書紀』では王を因幡国(現在の鳥取県)に流したとあり、さらに二人の子どもをそれぞれ「伊豆の島」と、現在の長崎県五島列島の島とされる「血鹿の島」に流したと記されています。また、『常陸国風土記』行方郡条には、麻続王が板来村(現在の茨城県潮来市の一部)に追放されて住んでいたという伝承も記録されています。

歌の「打つ麻を」は「麻続(「麻績」とも書きます)の枕詞で、麻は打って繊維を柔らかくして糸に績む(糸による)ことから、「麻続王」にかかります。高貴な身分である王が流罪になった上に、あろうことか海人でもあるかのように島の藻を刈っているらしやる——そのような悲哀と同情からこの歌が詠まれ、王の伝承と共にうたい継がれていったものと思われま。

王が実際はどこに配流されたのか、興味は尽きません。ですが、伊勢・因幡・常陸のような広範囲において、一人の人物をめぐる歌や伝承が残されていることにこそ、この作品の価値があるように思われます。この作品は、古代の伝承世界を知る貴重な手がかりとして注目されています。

(本文 万葉文化館 大谷歩)

万葉ちゃんの

つぶやき

和歌に
関連するものを
紹介するよ!



万葉ちゃん

昔からの食べ物

上の歌に登場する麻続王は、何のために「玉藻」を刈っていたのでしょうか? 実は今回の歌に麻続王が答えたという歌には「玉藻刈食」とあり、現代の私たちと同様、海藻を食べていたと考えられます。

現代の日本では世界中の食べ物が入りますが、日本に古くから伝わる古代米もその栄養価が見直されてきています。古代米を使ったおいしいレシピはP10の「新発見!おいしい奈良」で紹介しています。

